

能楽

伊勢山・掃部山・みなとみらい

目次

明治・大正期、伊勢山の能舞台……………1

[寄稿] 能と神道

～掃部山の横浜能楽堂からみなとみらいのOTABISHOへ～ ……4

お知らせ・境内大神神社に三ツ鳥居が竣工 ……7



伊勢山皇大神宮

明治・大正期、伊勢山の能舞台

文・権禰宜 小澤 朗



以下、日誌では六月二十一日には「能舞台落成報告祭執行（藤野善輔以下十一人列席）終つて能楽殿開設式として能楽数番が演じられた」〔資料④〕。

この能舞台は能楽堂とも呼ばれ、横濱能楽会の奉納能楽〔資料⑤〕などが催されたが、上演のたびに客席を設営するので経費も手間もかかった。そこで観覧所を兼ねた新社務所を建設することで藤野と神社は明治二十五年七月二十九日に合意〔資料⑥〕。翌八月二日龍山らは「社務所建築の件について世話人藤野氏ら同道にて豪商諸氏に賛成を仰いだ」〔資料⑦〕。

伊勢山皇大神宮では、明治・大正の頃、能楽が盛んに行われていた。その初めは、明治六年五月十六日のこと。同日付の『横濱毎日新聞』に「野毛山大神境内において十六日より五日間能役者を迎え興行がある」との記事がある〔資料①〕。五月十五日の例祭にちなんでの行事と思われる。有料で五日間の催しなので相当数の観客が来たことだろう。

資料①明治6年5月16日付『横濱毎日新聞』「野毛山大神(宮)境内」にて今日16日から5日間能役者を迎え有料興行がある、と伝えている。

この頃、生糸や茶の輸出などで成長していた横濱の商人たちは、日本の伝統文化である能を観ることや学ぶことに熱心だった。彼らに請われて指導したのが東京で一門を率いていた初代梅若実だった。彼の残した『梅若実日記』(以下「日記」)によると、横濱の茂木惣兵衛(生糸商)、大谷嘉兵衛(茶商)、藤野善輔(薬種商)らによる能の勉強会があり、梅若は出稽古に来浜していた。『日記』の明治二十二年三月十四日「藤野善輔出入りの大工が舞台の寸法を取りに来た。今般、横濱に新たに舞台が出来るといふ」と記されている。藤野が中心となつて能舞台の新設に動いていた。(大谷、茂木は伊勢山の総代も務めた)

伊勢山皇大神宮では当時から毎日の出来事を日誌に記録していた。

『伊勢山皇大神宮日誌撮要』(以下「日誌」)明治二十三年二月十一日に「藤野善輔氏が能楽殿寄附のため来訪した」とある〔資料②〕。能舞台を設置する場所は横濱総鎮守である伊勢山皇大神宮が相応しいと考えられたのだろう。

『横濱社会辞彙』(大正七年刊の横濱百科事典。以下「辞彙」)には、このとき対応した龍山親祇宮司當時は「大賛成」したという。『日誌』には、続く二月二十一日に「藤野氏が能楽舞台建設場の縄張り(測量)のため来社」〔資料②〕、四月七日には「藤野氏より能舞台切組(建築現場で材木を切り揃える作業)着手」した〔資料③〕。梅若は日記の五月十七日に「舞台を新築、本日六月舞台開きの祝能。(この興行を)六十円にて受け負い」したと綴っている。

四月三日
午前九時着席能舞台落成報告祭執行
藤野善輔氏より書簡にて能舞台切組着手十五日比マテニ来社落成スベキ由ヲ通知シ来ル
十三日
神鹿甲子年終了執行トテ宇田

資料③『日誌』明治23年4月7日
藤野氏から手紙で能舞台の切組(建築現場で材木を切り揃える作業)に着手、5月15日頃までには落成するだろうと通知が来た。

六月廿一日
午前九時着席能舞台落成報告祭執行
藤野善輔氏以下十一人列席、終了後能楽堂の開設式として能楽数番が演じられた。

資料④『日誌』明治23年7月29日
午前九時能舞台の落成報告祭が執行され藤野氏以下11人が列席、終了後能楽堂の開設式として能楽数番が演じられた。

◎能楽、横濱能楽會にては廿二日午前十一時より伊勢山大神宮の能樂堂に於て奉納の納樂を執行する由なるが當日の番組は枕草子(梅若六郎)安宅(梅若實)留月(觀世鐵之丞)にて狂言には焼か酒(山本東次郎)蟬牛(野村與作)等ありと云ふ

資料⑤明治23年11月22日『時事新報』「伊勢(山)太神宮の能楽堂」にて横濱能楽會が今日奉納の納(能)樂を執行する、と報じている。

七月廿二日
本日午後六時ヨリ羽取所若柳亭ニ於テ社務所新建築ニ付集會ス奉會者ハ矢沢氏藤野氏依田氏及初宮初掌メ上人也其要決ハ八月二日ニ在法入道ニテ先々立タル原田氏ハ初宮ハ仰キ然ル後着々相運スミト終テ一ノ着ヲ終ス

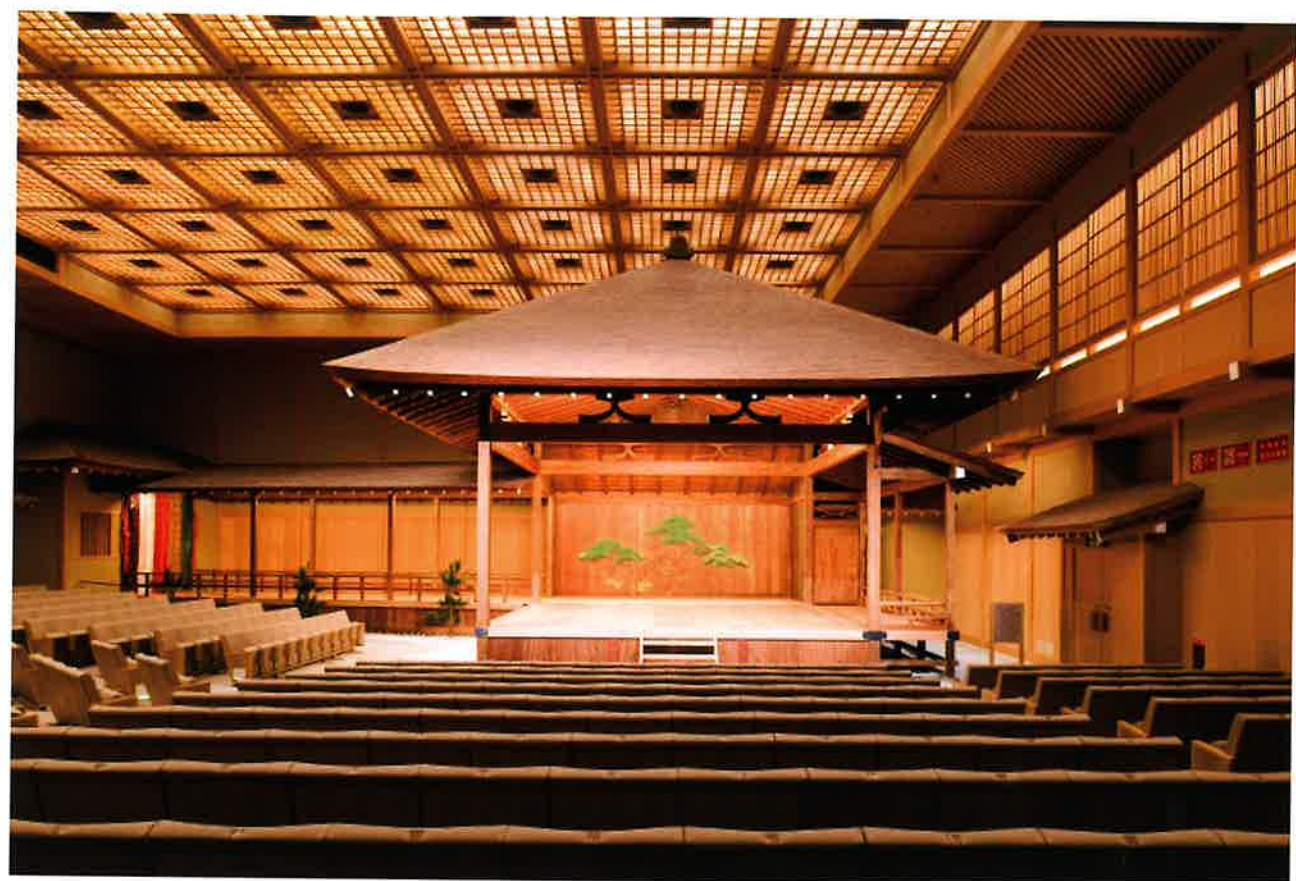
資料⑥『日誌』明治25年7月29日
社務所建築(能舞台の座席を兼ねる)について藤野氏らと集會、世話人(藤野氏ほか能楽関係者)と一緒に主なる豪商に賛同を求め、その後着々と進めようと決められた。

八月一日
原田氏來社神樂殿新築ノ件ヲ談ス
二日
初宮及初掌ハ社務所新築ノ件ヲ付在諸人藤野氏等同道ニテ豪商諸氏ハ訪問ヲ仰キ但シ本日初メ也

資料⑦『日誌』明治25年8月2日
集會から4日後、祠官(宮司)らは社務所建築の件について、世話人藤野氏らと一緒に豪商諸氏を訪問し賛同を求めた。この日はその初日。

三十一日
三島相堂辭職願之通現可相成ハ右指合主々人へ交付シ
二月九日
本日初宮及安東氏出頭石垣修繕ノ件ヲ談セラル
六日
本日午後六時ヨリ若柳亭ニ於テ終業則チ神酒百リ井神二供ス
十一日
藤野善輔氏能樂殿寄附ノ立政府出社有之、
廿一日
藤野善輔氏能樂殿寄附ノ立政府出社有之、
廿七日
土午修理其切組ス所ノ土庫大島居前ノ古井ヲ埋メ今日終ス
三月十八日
菅本豊章氏招魂社鳥居修復付ニ付来社
廿一日
初宮及安東氏出仕定例ノ如ク皇親各氏執行 藤野氏ヨリ能舞台建設報告可音通ル
三十日
社務所ニ於テ奉會者ハ初カル

資料②『伊勢山皇大神宮日誌撮要』(以下「日誌」)
明治23年2月11日に藤野善輔氏が能楽殿寄附のことで、続いて22日には能舞台建設(現)場の縄張り(測量)のため来社した。



横濱能楽堂本舞台

「高砂やこの浦舟に帆を上げて」の一節は、一昔前までは結婚式で詠われるのが定番であった。また、伊勢神宮を舞台とした「絵馬」や、大神神社を舞台とした「三輪」など、伊勢山皇大神宮と関連する作品もある。このような作品が作られたのは、神事芸能としての背景や、当時の能の庇護者であった將軍や貴族といった権力者に当代を讃美する内容が好まれたという政治的配慮も影響しているかもしれないが、戦乱や疫病、災害などで今よりも死が身近であった中世において、神がもたらす平穏な世の中というのは、より切実な願いであったことが反映されているのではなからうか。

さて、そのような650年以上の歴史を誇る能・狂言を上演するための専門劇場である横濱能楽堂は、伊勢山皇大神宮から紅葉坂を隔てた掃部山に平成8年(1996)年に開館、今年で28年目を迎える。横濱能楽堂の能舞台(本舞台)は、明治8年に(1875)東京・上根岸にあった旧加賀藩主・前田齊泰の隠居所に作られた舞台を復元したもので、150年近い歴史を持つている。伊勢山皇大神宮が明治3年に創建され150年あまりの歴史があることを考えると、立地といい、歴史といい、親近感が感じられる。



「OTABISHO 横濱能楽堂」の内部

横濱と能・狂言とのかかわりについては、13ページで言及されているので割愛するが、明治時代以降、横濱には財界人を中心に能の稽古するものが増加した。伊勢山皇大神宮内の能舞台建設もその流れを受けたものだが、横濱能楽堂の建設にあたっては横濱の能楽愛好者団体「横濱能楽連盟」を中心とした市民運動があり、5万人を超える署名や、総額約1億円の募金が集められたことが大きな原動力となっている。

横濱能楽堂は、開館以来、「敷居の低い能楽堂」をコンセプトに多彩な事業を展開してきた。新作の上演や古典作品の演出を工夫しての上演、古典芸能と他ジャンルとのコラボレーション、障がい者も健常者と一緒に能・狂言を楽しんでもらおうと、様々なサポートを準備した「バリアフリー能」や幼いころから狂言に触れる機会を提供する「こども狂言ワークショップ」など、多くの方に能・狂言に親しんでもらえるよう活動を行ってきた。

横濱能楽堂は、大規模改修工事のため令和6年1月から令和8年6月まで、2年半の長期にわたり休館している。休館の間は、みなとみらい地区にあるランドマークプラザ5階に移転し、人々が気軽に立ち寄れる能・狂言を紹介する場をひらくこととなった。店舗の名前を決めるために能楽堂スタッフで候補を出し合ったところ、「御旅所」はどうだろうかという案が出た。「御旅所」は、神社の祭礼の折、御神体が巡幸の途中で仮に鎮座し、人々と交流される場所のこと。少々恐ろしいネーミングではあるが、能舞台の特徴ともいえる鏡板(かがみいた)に描かれた松は、一説に、神の依代であるとされ、春日大社の「影向の松」を写したものだとも言われている。

能舞台にいる芸能の神様が掃部山を下り、2年半の間、人々が多く行き交うみなとみらいにやってくる。そして鎮座した御旅所に人々が集い、芸能を楽しむ場となっていく、というストーリーは面白い。最終的にみなとみらいの街に合った場所づくりをするともに、海外からの来訪者にも親しんでもらえるように「OTABISHO」とアルファベット表記にすることになった。「OTABISHO 横濱能楽堂」は、「見る・知る・体験する・学ぶ」のコンセプトで、能・狂言を紹介する場所として、今まで馴染みのなかった方たちにも興味を持っていただけるような展示・講座などを開催していく予定だ。伊勢山皇大神宮からは少し離れてしまったが、参拝の後には山を下りて、「OTABISHO 横濱能楽堂」にぜひお立ち寄りいただきたい。

また、休館期間中は、「つながるながる」をテーマに市内のホールなどで公演や講座などを開催していく。横濱の各地域に行って人々とつながり、650年以上続いてきた能・狂言を次世代へとつなぎ、より多くの人々に能・狂言を楽しんでもらって再開館へとつないでいく。2年半の期間限定の「祭り」をみなとみらいから盛り上げていきたい。



ランドマークプラザ5階に開設された「OTABISHO 横濱能楽堂」の外観

境内大神神社に三ツ鳥居が竣工

大神神社整備事業が滞りなく完遂しました。これもご奉賛頂きました皆様のお陰と心より感謝申し上げます。
奈良県桜井市に鎮座する大神神社にない、「三ツ鳥居」を建立致しました。「三ツ鳥居」とは明神型の鳥居を横一列に三つ組み合わせた独特の形式で「三輪鳥居」とも呼ばれております。長年の雨風に耐えた板垣も新調致しました。境内社大神神社が新たな装いとなり、一層のご神徳の宣揚に努めてまいります。

3月26日には大神神社整備事業竣工奉告祭を執行しました。荒天の中でしたが、奈良県大神神社宮司井上様を始め、約60名の方に御参列頂き、滞りなくご奉仕致しました。

境内整備事業としては「拝殿建替え工事」が残されています。工期は未定ですが、完遂まで努めてまいりますので、皆様方のご協力のほど宜しくお願い致します。

文 権 欄 宜 増 田 源 弘



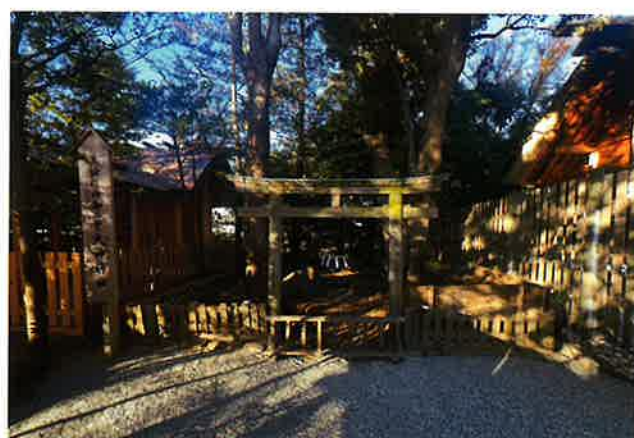
工事中



令和6年3月26日の竣工奉告祭(左・中・右)



新装なった三ツ鳥居



旧鳥居

伊勢山皇大神宮
崇敬会会員募集中
入会申込はこちら



ホームページ

<https://www.iseyama.jp/>



インスタグラム

<https://www.instagram.com/iseyamakotaijingu.official/>



フェイスブック

<https://www.facebook.com/iseyama.official/>



伊勢山皇大神宮

『社報』第23号

令和6年5月15日発行(年2回)

発行所 伊勢山皇大神宮 総務課 電話 045-241-1122

住所 〒220-0031 神奈川県横浜市西区宮崎町64番地

発行者 阿久津裕司

印刷 山陽印刷株式会社